

言語聴覚学専攻

専門職大学での言語聴覚学の学び

基礎科目

- 1 人間の探求
 - 心理学 ●生命倫理 など
- 2 社会の探求
 - コミュニケーション論
 - リーダーシップ論 など
- 3 地域の探求
 - 地域課題研究Ⅰ・Ⅱ
- 4 自然の探求
 - 情報処理演習Ⅰ・Ⅱ など
- 5 健康の探求
 - 健康科学 ●健康とスポーツ
- 6 外国語の探求
 - 英語Ⅰ・Ⅱ ●英会話 など

職業専門科目
専門支持科目

- 1 基礎医学
 - 解剖学Ⅰ・Ⅱ
 - 生理学Ⅰ・Ⅱ など
- 2 臨床医学
 - 内科学
 - 臨床神経学
 - 精神医学
 - 小児科学
 - リハビリテーション医学
 - 耳鼻咽喉科学
 - 臨床歯科医学 など
- 3 保健医療福祉の理念
 - リハビリテーション概論
 - 地域包括ケア論 など

職業専門科目
専門基幹科目

- 1 基礎言語聴覚学
 - 言語聴覚障害学総論Ⅰ
 - 失語症学
 - 言語発達学
 - 音声学
 - 吃音学
 - 嚥下障害学実習
 - 補聴器・人工内耳学
 - 機能性構音障害学実習 など
- 2 言語聴覚療法評価学
 - 言語発達障害評価実習
 - 失語・高次脳機能障害評価実習
 - 発声発語・嚥下障害評価実習
 - 聴覚障害検査実習 など
- 3 言語聴覚療法治療学
 - 言語聴覚療法技術実習Ⅰ
 - 言語聴覚療法技術実習Ⅱ
 - 言語聴覚療法技術実習Ⅲ
 - 言語聴覚療法技術実習Ⅳ など
- 4 言語聴覚療法臨床実習
 - 言語聴覚療法臨床実習Ⅰ
 - 言語聴覚療法臨床実習Ⅱ
 - 言語聴覚療法臨床実習Ⅲ

専門基幹科目は
実習科目
を中心に構成!



グループ学習

専門職大学での
新しい学び

「職業専門科目」に加え、関連する他分野を学ぶ「言語聴覚療法展開科目群」と、大学が養成する人材像や到達目標に照らして最終的に確認するための「応用言語聴覚学」を配置し、専門職としての幅を広げる学修を行います。

言語聴覚療法展開科目群

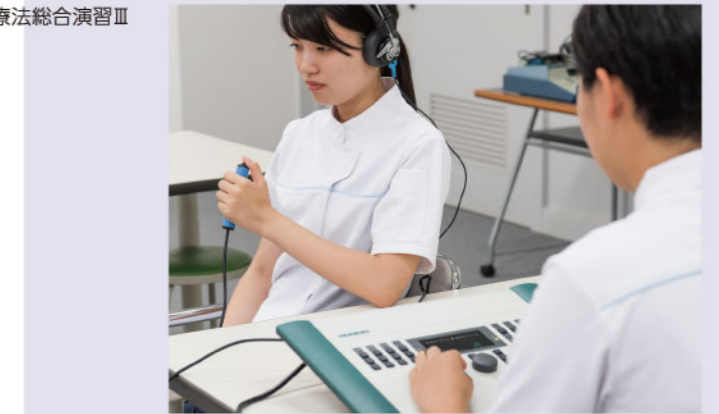
対象者のコミュニケーション方法を新たに開発し、より良いコミュニケーションのための環境づくりができる能力を修得します。

- 1 地域における情報の理解
 - 地域福祉活動論
 - 広告論
- 2 情報伝達の手法の理解
 - 情報メディア学入門
 - 企業広報活動論
 - 広告デザイン論
- 3 情報の表現方法の理解
 - マンガ概論
 - マンガ基礎実習
 - 活字デザイン論
 - 視覚デザイン論
 - カラーコミュニケーション概論
 - 視覚伝達デザイン論

応用言語聴覚学

これまで学修した内容の総まとめとして、実践の場における見学や事例を通して言語聴覚療法支援の実践について学修します。

- 言語聴覚療法地域支援実習
- 応用言語聴覚学演習
- 言語聴覚療法総合演習Ⅰ
- 言語聴覚療法総合演習Ⅱ
- 言語聴覚療法総合演習Ⅲ



聴力検査 (小さい音でも聴こえる?)



型はめ (色と形を理解している?)

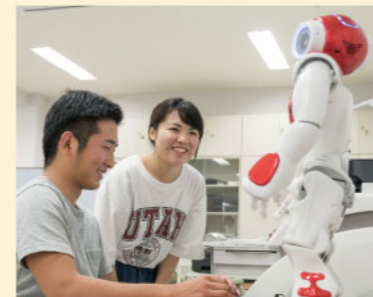
最先端研究機器



光トポグラフィ装置

光トポグラフィ装置とは、脳の活動状況を目で見えるようにする装置です。脳は部位によってそれぞれの役割が決まっています。脳が活発に活動するときは、活発に活動していないときに比べて、多くの血液が血管に流れます。血液は赤い光を多く

吸収します (血液が赤いのはこのためです)。吸収された光は反射しないので、光量の変化を測定して、脳のどの部分がいま、活発に動いているかを測定することができます。この装置を用いて研究活動を行うことができます。



ロボット

このロボットは、プログラミングによって歌を歌ったりダンスを踊ったり、学生の声の大きさを測定することなどができます。また、顔認証で来校者の年齢を当てることができます。



Message
教員からのメッセージ

言語聴覚士が対象とする主な障がいは、コミュニケーション機能と食べる機能といった、私達が生きる上で重要な分野です。みなさんが日常生活の上で当たり前に行っていることの素晴らしさや巧みさを、本校で一緒に学びませんか。話すこと、食べることに興味のある方はぜひ言語聴覚士を目指してください。